

## 手術記録 (I)

病歴番号 203015

(財)太田綜合病院

患者 森 2 枚 6 才 2 月   日  
 手術日 8 年 3 月 5 日 手術所要時間   時間 18 分  
 術者 男澤 助手 全田  
 術前診断 lt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋  
 出血量   ml 輸血量   ml 輸液量



恥骨結合の1横指上側1横指左側に2cmの皮膚切開。

皮下剝離して、外鼠径輪露出。

皮下組織は薄く容易に外腹斜筋腱膜に到達。

~~Potts法~~

外腹斜筋腱膜の外側の折り返しから1cmぐらいのところで、メスにて切開を加え、~~す~~ Potts法にて鼠径管開放。

ヘルニア嚢を持ち上げ、通下にネラトンテープを通し、中極側に剝離し、腹腹筋前脂肪を露出させて、モスキートにて頸部はさんで、2-0 silkにて高位結紮。

外腹斜筋腱膜を3-0 silkにて3針縫合。

浅在筋膜を3-0 silkにて1針縫合。

5-0 Vicrylにて皮下埋没縫合2針。



外鼠径輪

(財)太田綜合病院手術記録1号紙 M20001

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

## 手術記録 (I)

病歴番号 55279

(財)太田綜合病院

患者 眞 竜子 15才 10月 日

手術日 8年 3月 8日 手術所要時間 時間 40分

術者 男 澤 助手 大 沢

術前診断 *le. inguinal hernia*術後診断 *same as above*術 式 *Ferguson's*麻 酔 ☒ 吸入・☐ 静脈内・☐ 腰麻・☐ 硬麻・☐ 伝達・☐ 浸潤・☐ 表面・その他( ) 麻醉医 武 藤出 血 量      ml 輸血量      ml 輸液量     

恥骨結合の1横指上側1横指左側にメスにて3cmの皮膚切開。皮下剝離し外腹斜筋腱膜に到達。角径管膨隆部にメスにて小切開を加えメッソーでバウム剪刀にて開大。

ヘルニア嚢を持ち上げ直下にネラテンテープを通し、中位側へ剝離。

ヘルニア嚢を開放すると内臓経輪より末梢側で内容物は見られなかった。

ヘルニア嚢を開放の末梢側は外臓経輪をこえていた。

腹膜脂肪の位置で高位結紮(2-0 silk 雙通結紮×2)。末梢側は切開開放。



Ferguson法にて前壁補強(2-0 silk × 2)  
(内腹斜筋腱膜と角径筋とを結合)

外腹斜筋腱膜を4針結合(3-0 silk × 1  
2-0 silk × 3)

浅筋層を3-0 silkで2針結合。

皮下脂肪を5-0 Vicrylで3針結合

5-0 Vicrylにて皮下埋設結合3針にて手術終了。

(財)太田綜合病院手術記録1号紙 M2001

特記事項

病理標本 有・無

術中写真 有・無

記載者サイン

H. 7. 10. 3×25×80 (石橋納)



## 手術記録 (I)

病歴番号 180174

(財) 太田総合病院

患者 諒

2才 1月 日

手術日 8年 3月 8日

手術所要時間 時間 50分

術者 男澤 助手 金田

術前診断 ll. inguinal hernia associated with  
ll. funicular hydrocele.

術後診断 same as above

術式 Lucas - Championnière

麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋

出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



臍骨結合の1横指上側1横指左側に2cmの皮膚切開。皮下剝離し、外腹斜筋腱膜より外果径輪露出

Lucas - Championnière 法にて果径管開放

ヘルニア嚢を持ち上げ、キラトンテープを通し中極側へ剝離

ヘルニア嚢を開放すると内果径輪より末梢側で内容物は見られるが、た



ヘルニア嚢の末梢側は外果径輪をこえていた

ヘルニア嚢を離断し、ヘルニア嚢の断端をモスキートで把持し持ち上げ、精嚢を含んだ結合組織より剝離し、腹膜脂肪の位置で高位結紮(このとき、ヘルニア嚢は薄く、破れやすかった。高位結紮は3-0 black silk ×2, ~~3-0 silk~~ にて貫通結紮×2,

~~3-0 silk~~ 単托結紮×1)

ヘルニア嚢の末梢側は外果径輪をこえた所で盲端となっており、索状嚢構造物を精嚢に気をつけながら開いていくと水腫が認められたため開放した。それからたどっていき、精嚢にまで剝離をするめた。水腫は大きな1コのみだった。

外腹斜筋腱膜を3-0 silkにて4針縫合

浅筋膜を3-0 silkにて1針縫合

5-0 Vicrylにて皮下埋没縫合3針し、手術終了



(財) 太田総合病院手術記録 180174

M20001

特記事項

病理標本 有・無

術中写真 有・無

記載者サイン

H. 7. 10. 3×25×80 (石橋納)

## 手術記録 (I)

病歴番号 187707

(財)太田綜合病院

患者 理恵 2才 6月 日  
 手術日 8年 3月 15日 手術所要時間 時間 18分  
 術者 男澤 助手 大沢  
 術前診断 rt. inguinal hernia (対側発生)  
 (前回 H7. 11/17 手術)  
 術後診断 same as above.  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



前回手術瘢痕

恥骨結合の右1横指上側 - 横指右側に 2cm の皮膚切開。

皮下剝離し外角径輪露出。

角径管開放しヘルニア嚢持ち上げ、直下にネラトリーフ通した。



ヘルニア嚢の末梢側は外角径輪を縫こえていた。

中極側に剝離し、ヘルニア嚢を開放すると、大網が認められたため、鉗子にて腹腔内に還納し、

~~モスキート鉗子で~~ 高位結紮 (2-0 silk 縫合結紮×2) 末梢側開放後還納。

外腹斜筋腱膜を 3-0 silk にて 3針縫合。

外浅在筋腱を 3-0 silk にて 1針縫合

5-0 Vicryl にて皮下埋没縫合し手術終了

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン



## 手術記録 (I)

病歴番号 203619

(財)太田綜合病院

患者 拓也 2才 9月 日  
 手術日 8年 3月 15日 手術所要時間 時間 18分  
 術者 男澤 助手 大沢  
 術前診断 Lt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



恥骨結合の1横指上側1横指を側に2cmの皮膚切開。

皮下剥離し外筋腔輪露出。

筋腔管開放して、ヘルニア嚢を持ち上げ、直下に  
 プラテンテープ通した。

中極側に剥離し、ヘルニア嚢開放。

ヘルニア嚢末梢側は外筋腔輪を超えては、  
 ヘルニア嚢離断し、中極側を持ち上げ、同  
 りの結合組織を剥離し、高位結紮(2-0 silk  
 貫通結紮、2-0 silk 連続結紮)

末梢開放し、止血確認した後還納。

外筋腔筋腱膜 3-0 silkにて3針縫合。

浅筋膜膜を 3-0 silkにて1針縫合。

5-0 Vicrylにて皮下埋没縫合2針

\*加えて手術終了。

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

## 手術記録 (I)

病歴番号 50708

(財) 太田綜合病院

患者 佐平 6才 1月 日  
 手術日 8年 3月 19日 手術所要時間 時間 28分  
 術者 男澤 助手 金田  
 術前診断 rt. inguinal hernia  
 術後診断 rt. inguinal hernia  
 rt. funicular hydrocele  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 武藤  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



恥骨結合の1横指上側1横指右側に2cmの皮膚切開。

皮下剝離し外腹斜筋腱膜に到達。

角径を膨隆部にメスにて小切開、コッヘルにて開大。メッセンバウムにて切開を広げ、ヘルニア嚢を持ち上げ、直下にネラトンテープ通した中脛側に剝離。

ヘルニア嚢開放し、~~観察~~してみるとその部分は cyst を形成していた。(中脛側・盲腸)

(hydrocele と考えられるが内臓は認められなかった)。

1cm 程中脛側でヘルニア嚢開放すると、腹腔内との交通が認められた。(peritoneal sac?)

ヘルニア嚢を縫断し、中脛側頭部にて高圧結紮。末梢側をたどっても他に水腫みみならず、ヘルニア嚢断端還納し、外腹斜筋腱膜を 3-0 silk にて 3 針缝合。

浅筋膜を 3-0 silk にて 1 針缝合。

5-0 Vicryl にて皮下埋没缝合 2 針加え、全手術終了。

2-0 silk  
縫合 2 針

(財) 太田綜合病院手術記録 1 号紙 M20001

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン



## 手術記録 (I)

病歴番号 202021

(財)太田綜合病院

患者 愛 4才 11月 日  
 手術日 8年 3月 19日 手術所要時間 時間 14分  
 術者 男澤 助手 大沢  
 術前診断 rt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



恥骨結合の2横指右側、1横指上側に2cmの皮膚結合切開。

皮下剥離し外腹斜筋腱膜に到達。  
 角径管膨隆部にメスにて小切開を加え、コップにて鉗的に開大し、メッセンバウムにて切開を広げた。  
 ヘルニア嚢を持ち上げ、直下にネラトンテープを通して、

中極側へ剥離してから、ヘルニア嚢開放。

ヘルニア嚢内に大網・卵巣などの消脱はみられなかった。それら、2-0 silkにて高位結紮(貫通結紮×2)

末梢側開放し、還納。



ヘルニア嚢・末梢側は、外角径管をこえていた。

外腹斜筋腱膜を3-0 silkにて3針縫合。

浅筋膜を3-0 silkにて1針縫合。

5-0 Vicrylにて皮下埋戻縫合を3針加え手術終了。

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

## 手術記録 (I)

病歴番号 203354

(財)太田綜合病院

患者 龍平 3才 4月 日

手術日 8年 3月 19日 手術所要時間 時間 27分

術者 男澤 助手 金田

術前診断 rt. inguinal hernia

術後診断 same as above

術式 Lucas - Championiere

麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋

出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



恥骨結合の1横指上側1横指右側に2cmの皮膚切開。  
皮下剝離して外腹径輪露出し Lucas - Championiere 法にて 腹径管開放。  
ヘルニア嚢を持ち上げ直下にクラウンテープを通した。  
中脛側へ剝離し ヘルニア嚢を開放 ~~嚢を~~。  
ヘルニア嚢を離断し、中脛側のヘルニア嚢を持ち上げ、高位結紮(2-0 silk 嚢通結紮×2)末脛側を電気メスにて開放。



ヘルニア嚢の末脛側は外腹径輪をこえていた。

ヘルニア嚢断端を還納し、外腹斜筋腱膜を3-0 silkにて3針縫合。  
浅筋膜も3-0 silkにて1針縫合。  
5-0 Vicryl にて皮下埋設縫合3針加え手術終了。

(財)太田綜合病院手術記録1号紙 M20001

特記事項

病理標本 有・無  
術中写真 有・無  
記載者サイン

H. 7. 10. 3×25×80 (石橋純)



## 手術記録 (I)

病歴番号 54780

(財)太田綜合病院

患者 真唯子 6才 11月 日  
 手術日 8年 3月 22日 手術所要時間 時間 18分  
 術者 男 澤 助手 金田  
 術前診断 rt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 北高橋  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



恥骨結合の1横指上側1横指+右側に2cmの皮膚切開。

皮下剝離し外腹径輪を露出。

前腹壁にメスにて小切開→コップにて開大

ヘルニア嚢を持ち上げ直下にクラウンテープ通した

ヘルニア嚢を中括弧側に剝離し腹膜前脂肪露出。



ヘルニア嚢開放し、腹膜前脂肪の位置で高位結紮(2-0 silk 輪通結紮×2)

末梢側開放し還納。

外腹斜筋腱膜を3-0 silkにて3針縫合

浅在筋膜を3-0 silkにて1針縫合

皮下埋没縫合(5-0 Vicryl ×2)にて手術終了

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

## 手術記録 (I)

病歴番号 196997

(財) 太田綜合病院

患者 悠貴 8才 9月 日  
 手術日 8年 3月 22日 手術所要時間 時間 38分  
 術者 男澤 助手 金田  
 術前診断 lt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



外筋径輪

恥骨結合の1横指上側1横指左側にメスにて  
 2cmの皮膚切開。  
 皮下剝離し、外腹斜筋腱膜に到達。  
 メスにて筋径管に小切開を加え、開大し筋径管開放。  
 ヘルニア嚢を持ち上げ、直下にフラットテープを当てた。  
 ヘルニア嚢開放して離断。  
 中極側を持ち上げて、腹膜前脂肪の位置で  
 高位結紮。  
 末梢側開放し、還納。  
 外腹斜筋腱膜 3-0 silkにて3針縫合。  
 浅筋膜 3-0 silkにて1針。  
 皮下埋没縫合 (5-0 Vicryl × 2)  
 にて手術終了。

特記事項

 病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン



## 手術記録 (I)

病歴番号 179136

(財) 太田綜合病院

患者 敏 衛 1 才 4 月 日

手術日 8 年 3 月 22 日 手術所要時間 時間 19 分

術者 男 澤 助手 大 沢

術前診断 lt. inguinal hernia

術後診断 same as above

術式 Potts

麻 酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高 橋

出 血 量 ml 輸血量 ml 輸液量



恥骨結合の1横指上側1横指左側にメスにて2cmの皮膚切開。

皮下斜断して外角径輪直上に達した。ヘルニア囊の末梢側は、外角径輪をこえていた。



折り返し

外角径輪

左図の通り角径管の膨隆部にメスにて小切開。

コッヘルにて開大。

ヘルニア囊持ち上げ直下にネラトインターフ通した。

外角径輪メスにて小切開

中脛側に斜断し、ヘルニア囊開放、離断して、中脛側にて高位結紮。(2-0 silk 貫通結紮 × 2)

末梢側開放し、還納。

外腹斜筋腱膜 3-0 silk 3針縫合。

浅筋膜 1針縫合

皮 5-0 Vicryl 皮下埋没縫合2針にて手術終了

(財) 太田綜合病院手術記録1号紙

M2001

特記事項

病理標本 有・無

術中写真 有・無

記載者サイン

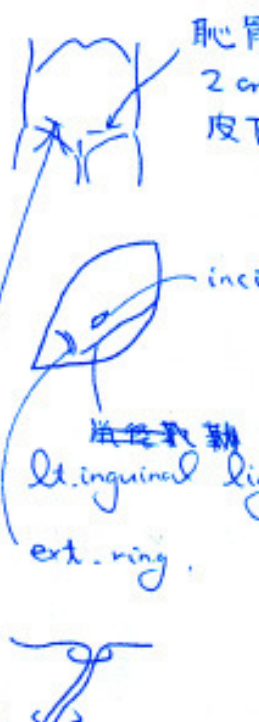
H. 7. 10. 9×25×80 (石橋納)

# 手術記録 (I)

病歴番号 138146

(財) 太田綜合病院

患者 受 6才 4月 日  
 手術日 8年 3月 26日 手術所要時間 時間 11分  
 術者 男澤 助手 大沢  
 術前診断 lt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 ☒ 吸入・☐ 静脈内・☐ 腰麻・☐ 硬麻・☐ 伝達・☐ 浸潤・☐ 表面・その他( ) 麻酔医 野崎  
 出血量      ml 輸血量      ml 輸液量     


 恥骨結合の1横指上側1横指を側にメスにて  
 2cmの小切開。  
 皮下剥離して外鼠径輪露出。  
 鼠径管膨隆部にメスにて小切開、コックル  
 にて開大。  
 ヘルニア嚢持ち上げ、直下にネラトニラープ  
 通し、中極側へ剥離し、腹膜前脂肪  
 露出。  
 ヘルニア嚢開放し、腹膜前脂肪  
 の位置を高位に引き上げ、(2-0 silk 普通結紮x2)  
 で  
 本筋開放し還納。  
 外腹斜筋腱膜を3-0 silk 3針縫合。  
 浅在筋膜を3-0 silk にて1針縫合。  
 皮下埋没縫合(5-0 Vicryl x2)  
 にて手術終了。

H8.1/26 当科にて手術。  
 (rt. inguinal hernia のため)

(財) 太田綜合病院手術記録1号紙  
 M2001

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

JL 7. 10. 3×25×80 (石橋納)



## 手術記録 (I)

病歴番号 116903

(財)太田綜合病院

患者 様子 6才 月 日  
 手術日 8年 3月 26日 手術所要時間 時間 23分  
 術者 男 護 助手 金田  
 術前診断 R. inguinal hernia.  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 野崎  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



恥骨結合の1横指上側1横指左側にメスにて  
 2cmの皮膚切開。

皮下剥離し 外腹斜筋腱膜に到達。

角鉗子にメスにて小切開。コップルにて開大  
 ヘルニア囊持ち上げ。直下にネラトロープ通  
 し。中極側へ剥離し。腹膜前脂肪露出。  
 ヘルニア囊開放し。内を剥離した内容物  
 がないことを確認して。腹膜前脂肪の  
 位置で高位結紮。  
 末梢側開放し還納。

外腹斜筋腱膜を3-0 silkにて3針縫合  
 浅筋腹を3-0 silkにて1針縫合。  
 5-0 Vicrylにて皮下埋設縫合2針  
 にて手術終了。

(財)太田綜合病院手術記録1号紙

M2001

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

## 手術記録 (I)

病歴番号 50932

(財)太田綜合病院

患者 彩花 9才 月 日  
 手術日 8年 3月 26日 手術所要時間 時間 18分  
 術者 男澤 助手 金田  
 術前診断 lt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 丹野  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



恥骨結合の1横指上側1横指左側にメスにて  
 2cmの皮膚切開。

皮下剥離し、外鼠径輪露出。(ヘルニア囊の末梢側  
 は、外鼠径輪をこえていた。)



lt. inguinal ligament  
 ext. ring.

左図のように鼠径管にメスにて小切開、コウペル  
 にて開大。

ヘルニア囊持ち上げ、直下にキラントラップ通し、中  
 転側へ剥離し、腹膜前脂肪  
 露出。

ヘルニア囊開放し、腹膜前脂肪  
 の位置で高位結紮(2-0 silk  
 貫通結紮×2)

末梢開放し還納。

外腹斜筋腱膜を3-0 silkにて3針縫合。  
 浅筋膜を3-0 silkにて1針縫合。  
 皮下埋没縫合(5-0 Vicryl ×2)  
 にて手術終了。

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン






# 手術記録 (I)

病歴番号 77760

(財) 太田綜合病院

患 者 賢 5 才 5 月    日  
 手術日 8 年 3 月 29 日 手術所要時間    時間 42 分  
 術者 男澤 助手 大沢  
 術前診断 blt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術 式 Potts  
 麻 酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋  
 出 血 量    ml 輸血量    ml 輸液量   

(右側)  
  
 外表より外筋径輪確認し、恥骨結合の1横指上側2横指右側に2cmの皮膚の間、皮下剝離し、外筋径輪確認。このとき、右側のヘルニア嚢は外筋径輪を越えていた。左図のように、筋径管膨隆部にメスにて小の間を加え、コッヘルにて開大し把持(筋径管開放)  
  
 ヘルニア嚢を持ち上げ直下にネットテープ通し中括弧側へ剝離。筋径管膨隆部を露出。  
 ヘルニア嚢開放して sliding した嚢を摘出。これを確認してから、筋径管膨隆部の位置で高位結紮(2-0 silk 普通結紮×1, 単糸結紮×1)末梢開放。ヘルニア嚢は全体に肥厚がみられた。  
 外筋斜筋腱膜を3-0 silk にて3針縫合。浅筋膜を3-0 silk にて1針縫合。

(左側)  
  
 外表より ext. ring 確認し、その直上に2cmの皮膚の間を加え、皮下剝離し、外筋径輪露出。  
 左側も、ヘルニア嚢の末梢側は、外筋径輪を越えていた。左図のように筋径管開放してから、ヘルニア嚢を持ち上げると、右側より小さかった。  
 blt. inguinal lig.

(財) 太田綜合病院手術記録1号紙 M20001

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

# 手術記録 (I)

## 手術記録 (II)

医師用

病歴番号 77760

(財)太田綜合病院

患者 腎 5才 5月 日 42

手術日 8年 3月 29日 手術所要時間 時間 42分

ヘルニクスを開放しても滑膜物はみられなかった  
 腹膜前脂肪の位置で高位結紮(2-0 silk 腸通結  
 紮×1, 単托結紮×1)bove  
 末梢側を開放すると、右側と同様に肥厚がみられた。  
 外腹斜筋腱膜を3-0 silkにて3針縫合。  
 浅在筋腹を3-0 silkにて1針縫合。  
 5-0 Vicrylにて皮下埋没縫合(左2針、右3針)。



## 手術記録 (I)

病歴番号 91246

(財)太田綜合病院

患者 裕貴 7才 2月 日

手術日 8年 3月 29日 手術所要時間 時間 15分

術者 男澤 助手 大沢

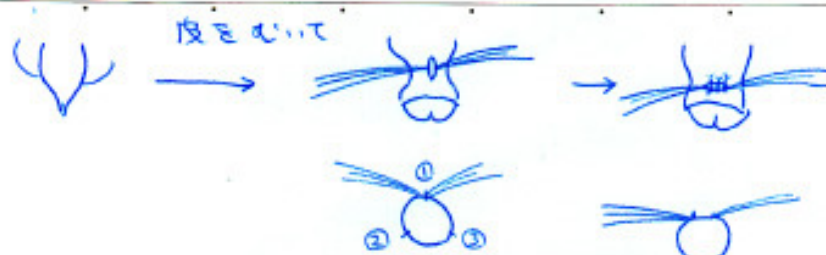
術前診断 包茎

術後診断 同上

術式 形成術

麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋

出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



上図のらに長軸方向に5mmの切開を加えて、モスキートにて横軸方向に引きながらVicryl 5-0にて3針縫合。

これを図の①、②、③に順に行て、手術を終了。

特記事項

病理標本 有・無  
術中写真 有・無  
記載者サイン

## 手術記録 (I)

病歴番号 155934

(財) 太田綜合病院

患者 兎平 2才 4月 日

手術日 8年 4月 12日 手術所要時間 時間 5/分

術者 男澤 助手 大沢

術前診断 lt. undescended testicle

術後診断 same as above (左精巣 7×14mm で低形成で考えられた)

術式 Inguinal orchiopexy (精巣固定の際に tension がかからなかった)

麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 高橋

出血量 ml 輸血量 ml 輸液量

① 恥骨結合の2横指上側、2横指左側より皮膚斜角線に沿って3cmの皮膚切開を加えた。



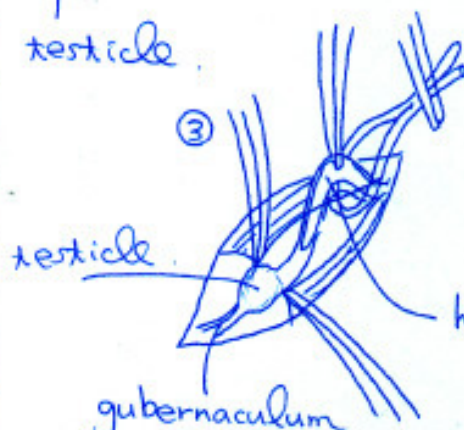
高位結紮をした後に、ヘルニア嚢とその直下の精巣動脈・静脈・精管での剥離を行い、きすいように、ソケイヘルニアの手術の際よりも、高い位置に皮膚切開を加えた。



一要するに、内臓径輪に近い位置で切開した

testicle

② 皮下剥離して、外腹斜筋・腰筋に到達して、外臓径輪を確認すると、そのすぐ末梢側に精巣が認められた。



まず、臓径管を開放するために、外腹斜筋・腰筋にメスにて小の切開を加えた。それから、メッセンバウシにて中括弧側に切開をなげ、それから、末梢側に切開をなげ、外臓径輪を開放

(財) 太田綜合病院手術記録1号紙 M 20001

特記事項

病理標本 有・無

術中写真 有・無

記載者サイン



## 手術記録(II)

病歴番号 155934

(財)太田綜合病院

患者 完平

2才 4月 日

手術日 8年 4月 12日

手術所要時間 時間 5/分



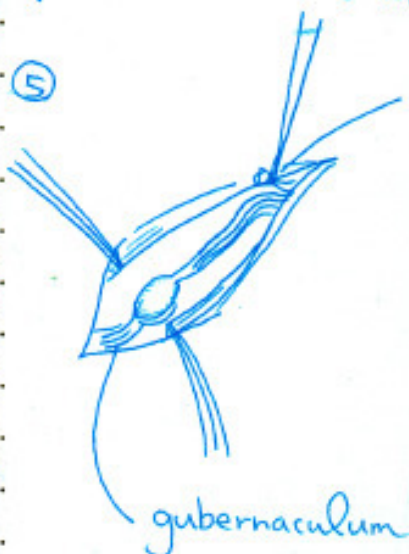
④ 外陰を開放するとヘルニア嚢(と思われる)が認められたため、その部分を金鉗子にて持ち上げ、直下にネラントンテープを通した。

さらにヘルニア嚢と同回相徴との剝離を進めると、ヘルニア嚢自体とネラントンテープの間に精巣挙筋と考えられる筋線維束が認められたため、ヘルニア嚢直下にネラントンテープをかけ直した。

ヘルニア嚢を開放しても、内腔は狭く、ヘルニア嚢自体も非常に薄かった。ヘルニア嚢の末梢側は外陰径輪に届いていなかった。

ヘルニア嚢を離断して、中枢側を持ち上げながら、膀胱前脂肪の位置で高位結紮。

このとき、高位結紮の糸を残しておいて、高位結紮部を持ち上げながら、精管から剝離した。これにより、精管及び精巣動脈静脈をフリーにして、精巣を陰嚢に引き下げてくる際に、有利に働く。



high ligation

高位結紮の位置よりさらに1cm程度高い位置まで剝離。

精巣導帯の切離に際しては、精管のまわり込みに注意しながら、電気メスにて切離。



## 手術記録(II)

病歴番号 155934

(財)太田綜合病院

患者 亮平

2才4月 日

手術日 8年4月12日

手術所要時間 時間 51分

⑥



左図の位置にメスにてオ小切開 加入。モスキート鉤子を用いて皮下にポケットを作った。鼠径部より指を陰のうに向けて左手の人差し指を通して、dartosを通して皮膚切開部に指がでるようにした。

pocket  
(subcutaneous pouch)

電気メスにて、さらに dartos を切開し、ペアン鉤子を図のように手袋に当てたまま、ペアンを差し込んで、鼠径部の開放部に出した。



ペアンの先端で精巣の外側の結合組織を把持して、陰囊の切開に引き下ろした。



testicle

dartos

精巣の周りの結合組織にまず、4-0 Vicryl をかけて、それから dartos にかけた。これを、精巣が揺れないように、3カ所行い、精巣の皮下ポケットへの固定を完了した。

陰囊切開部は 4-0 Vicryl にて4針縫合。  
外腹斜筋腱膜を 3-0 silk にて3針縫合。  
浅在筋膜を 3-0 silk にて1針縫合。  
5-0 Vicryl にて埋没縫合3針にて手術終了。



## 手術記録 (I)

病歴番号 203695

(財)太田綜合病院

患者 有希 1才3月 日  
 手術日 8年5月10日 手術所要時間 時間 18分  
 術者 男澤 助手 近藤  
 術前診断 rt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 篠田  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



左図の位置に2cmの皮膚切開。  
 皮下剥離して外腹斜筋腱膜に到達。  
 盲腸・盲腸隆部にメスにて小切開を加え、コウペルにて開大(盲腸を開放)  
 ヘルニア嚢を持ち上げ直下にクラトン通し、中根側へ剥離し腹膜前脂肪露出。  
 ヘルニア嚢開放(卵窩のslidingは認められなかった)  
 ヘルニア嚢の末梢側は外角後輪を超えていた  
 腹膜前脂肪の位置で高位結紮(2-0 silk 貫通結紮×2)  
 末梢側開放。  
 外腹斜筋腱膜縫合(3-0 silk ×3)  
 浅在筋膜縫合(3-0 silk ×1)  
 皮下埋没縫合(5-0 Vicryl ×3)  
 にて手術終了。

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

## 手術記録 (I)

病歴番号 204943

(財) 太田総合病院

患者 松梨 才 8 月 日  
 手術日 8 年 5 月 8 日 手術所要時間 時間 22 分  
 術者 男澤 助手 近藤  
 術前診断 Lt. inguinal hernia  
 術後診断 same as above  
 術式 Potts  
 麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 白岩  
 出血量 ml 輸血量 ml 輸液量

左図の位置に 2 cm の皮膚切開  
 皮下剥離し外腹斜筋腱膜に到達  
 筋径管膨隆部にメスにて小切開を加え  
 コップにて開大 (単径管開放)  
 ヘルニア嚢持ち上げ直下にネラトンを通し  
 中括弧側へ剥離 腹腔前脂肪露出  
 ヘルニア嚢開放して、円靱帯を引くと  
 腹腔脂肪のすぐ中括弧側に卵管が認められた  
 round lig. properitoneal fat.  
 左図の位置で高位結紮 (2-0 絹通結紮  
 x2) 末梢側開放 (末梢側は外前径筋  
 を超えていなかった)  
 外腹斜筋腱膜を 3-0 silk にて 3 針  
 縫合 浅在筋膜を 3-0 silk にて 1 針縫合  
 5-0 Vicryl にて  
 皮下埋没縫合 3 針  
 にて手術終了  
 round lig. properitoneal fat.  
 ovarian duct. high ligation

(財) 太田総合病院手術記録 1 号紙

M20001

特記事項

病理標本 有・無  
 術中写真 有・無  
 記載者サイン

H. 7.5.3×25×40 (石橋納)



# 手術記録 (I)

病歴番号 69711

(財) 太田綜合病院

患者 雅樹 10才 10月 日  
手術日 8年 5月 21日 手術所要時間 時間 55分  
術者 男澤 助手 近藤  
術前診断 bla. hydrocele  
術後診断 patent vaginal process  
術式 rt; Potts  
lt; Lucas - Championnière  
麻酔 吸入・静脈内・腰麻・硬麻・伝達・浸潤・表面・その他( ) 麻酔医 野崎  
出血量 ml 輸血量 ml 輸液量



右側;



左図のように皮膚の開口  
皮下剝離し、外腹斜筋  
腱膜に到達。  
筋腔を膨らめ  
メスにて小の開口  
し、筋腔を開放。  
精巣を図のように  
持ち上げると、鞘状  
を起が認められた。  
末梢端をモスコート鉗子にて把持し、持  
ち上げ、中極側へ剝離。腹膜前脂肪の  
位置で高位結紮 (2-0 silk 貫通結紮×1、  
単糸結紮×1)  
外腹斜筋腱膜閉鎖 (3-0 silk × 3)

精巣を引き上げて dartos fascia を切開するが、  
hydrocele は認められなかった。

浅筋腹膜閉鎖  
(3-0 silk × 1)  
内下腹膜閉鎖  
(5-0 Vicryl × 3)

(財) 太田綜合病院手術記録1号紙

M 20001

特記事項

病理標本 有・無  
術中写真 有・無  
記載者サイン

## 手術記録(II)

病歴番号 69711

(財)太田綜合病院

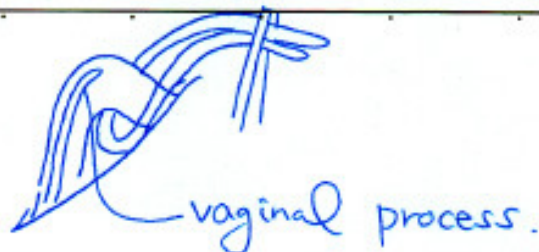
患者 雅樹

10才 10月 日

手術日 8年 5月 21日

手術所要時間 時間 55分

左側 ;



外角径輪より中胚側へ  
2cm 切開し、角径を開放

右側と同様に、精索を持ち上げて  
鞘状突起が認められた。  
持ち上げて腹膜前脂肪の位置で  
高位結紮 (2-0 silk x 2)。

精巣を引き上げて dartos fascia を  
切開するが、hydrocele は認められな  
かった。

外腹斜筋腱膜閉鎖 (3-0 silk x 3)

浅在筋膜閉鎖 (3-0 silk x 1)

皮下埋没縫合 (5-0 Vicryl x 3)

にて手術終了。



大澤 義弘（おおさわ よしひろ）先生  
近藤 公男（こんどう きみお）先生  
金田 聡（かなだ さとし）先生  
医者として、新米外科医として  
ゼロの状態から面倒を見ていただき、  
本当にありがとうございました。

9  
男  
澤  
拓  
様

旭  
町  
い  
ず  
み  
プ  
ラ  
ザ  
406

園  
市  
旭  
町  
2-1-3



財団法人 太田 綜合 病院

附属 太田西ノ内病院

〒963 福島県郡山市西ノ内2丁目5番20号  
電話（代）（0249）25-1188

近藤公男

平成 9 年 1 月 20 日